

令和 5 年 4 月 23 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12532

研究課題名(和文)独立直前の西アフリカにおけるリテラシーの社会的位置づけ：ハンパテ・バの活動から

研究課題名(英文) Social Meanings of Literacy in West Africa just before Independence: The Case from Amadou Hamapte Ba

研究代表者

中尾 世治 (Nakao, Seiji)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・助教

研究者番号：80800820

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：最も大きな研究成果は、著書1冊、査読付き学術誌の特集である。著書『西アフリカ内陸の近代』では、ブルキナファソのムフン川湾曲部における前近代から20世紀半ばまでの長期的な歴史の変動を明らかにし、リテラシーを植民地統治以前と以後の双方において考慮し、その政治・経済・宗教のそれぞれの側面での意義とそれらの関連について明らかにした。なお、本著作は日本アフリカ学会研究奨励賞を受賞した。また『年報人類学研究』で「西アフリカ・イスラーム研究の新展開」と題した特集を構成し、言説的伝統の概念を援用し、書記言語ごとに言説を構成する伝統が異なり、それらの差異によるブルキナファソの改革主義運動への影響を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ブルキナファソを含め、西アフリカ諸国の歴史研究は少ない。特に、植民地統治以前から独立までの長い時間幅での研究は、世界的にみても稀である。本研究には、まず第一に、西アフリカの歴史研究を進展させたという点での大きな意義がある。さらに、本研究では、リテラシーに着目し、植民地統治以前から続くアラビア語の利用と、植民地統治以降のフランス語の導入が、西アフリカのムスリム(イスラーム教徒)にとってどのような意味をもったのかを明らかにした。こうした研究は、旧宗主国の書記言語のみを対象としたリテラシーの向上をうたう開発援助の在り方を問い直すものとしての意義をもつ。

研究成果の概要(英文)：The most significant research achievements are the publication of a book and a special issue in a peer-reviewed journal. The book, "Modernities in Inland West Africa," reveals long-term historical change in the Mouhoun River Bend of Burkina Faso from pre-modern times to the mid-20th century, considering literacy both before and after colonial rule, its significance in each of its political, economic, and religious dimensions, and the relationship between them. This work received the Research Award of the Japan Association for African Studies. In addition, he organized a special issue of the "Annual Papers of the Anthropological Institute" entitled "New Turn on the Studies of Islam in West Africa," in which he used the concept of discursive traditions to clarify the differences in the traditions that constitute discourses in different written languages and their impact on the reformist movement in Burkina Faso.

研究分野：歴史人類学

キーワード：リテラシー 西アフリカ ブルキナファソ 言説的伝統 アマドゥ・ハンパテ・バ 『プレザンス・アフリケーヌ』

1. 研究開始当初の背景

アマドゥ・ハンパテ・バは、1900年に仏領スーダン(現、マリ)でフルベの有力者の息子として生まれ、植民地学校にて中等教育を受けた。その後、オート・ヴォルタ(現、ブルキナファソ)、仏領スーダンで「現地人行政官」の通訳(1921-1942年)、IFAN(フランス黒アフリカ研究所)の助手(1942-1958年)として勤務した。1940年代からIFANの연구원などの共著の民族誌や民族学の論文を発表し、のちに、オート・ヴォルタ植民地勤務時代の先輩であったワングランについての伝記的小説『ワングランの不思議』によって黒アフリカ文学賞を受賞し、その後も二巻の自伝を残し、1991年に死去した。一般的にはサハラ以南アフリカを代表する小説家の一人として知られている。

ハンパテ・バについての研究は、主として文学研究として、主著のテキストの分析や相互比較がなされてきた(引用文献(4)(5)など)。一方で、歴史研究では、ハンパテ・バのスーフィーの師であるチェルノ・ボカールを対象としたイスラーム史研究やイスラーム改革主義運動の歴史研究において、ハンパテ・バは部分的に研究されてきた(引用文献(6)(7)など)。

このように、文学研究と歴史研究が相互に交わることはほとんどなかった。しかし、近年では、『ワングランの不思議』に書かれた内容と当時の植民地期の行政文書とを比較検討する研究がなされてきている(引用文献(8)(9)など)。それらの研究は『ワングランの不思議』のごく一部の事件をめぐるものに限定されているが、植民地行政内部のコンフリクトや社会関係をおびた地名・人名とともに記述したハンパテ・バの伝記的小説についての新たな読みを提示したといえる。申請者も、行政文書・宣教団の日誌・イスラーム改革主義運動の活動記録・口頭伝承などを用いて、オート・ヴォルタにおける植民地史研究を進めてきたが(【研究業績】(1)(4)(5)(7)(8))、博士論文のなかでハンパテ・バの自伝第二巻の内容の一部について行政文書と比較検討する同様の研究を行った(【研究業績】(4))。

本研究では、こうした研究動向を踏まえつつ、ハンパテ・バの民族誌・論文と、同時代の史料を対照させつつ、1950年代以降の活動を分析する。この時期、ハンパテ・バは、同時代に仏領西アフリカで勃興していた、アラビア語の語学教育とイスラーム教育を近代教育法によって行うというイスラーム改革主義運動に対抗して、植民地行政の後援を受けて、現地語によるイスラーム教育の普及を対抗・改革主義運動として推進した。こうした運動に並行して、IFANの助手であったハンパテ・バは民族学的な調査によって口頭伝承の収集と民族誌・論文の執筆を行い、現地語のアルファベット表記の開発を模索していた。さらに、ハンパテ・バは、IFANでの口頭伝承研究を元にネグリチュード運動の中心の一つであった『プレザンス・アフリケーヌ』誌に寄稿し、口頭伝承のフランス語へのテキスト化をグローバルな文化政治運動へと展開した。ハンパテ・バによる口頭伝承のテキスト化の活動は、どの文字言語でイスラーム教育を行うのかという同時代のローカルな文化政治運動と無縁ではなく、同時に汎アフリカ主義を掲げるネグリチュード運動における口承性の強調とフランス語による国際的な文化政治運動と結びついたものでもあった。

【引用文献】

- (1) Goody, J. (ed.) (1968) *Literacy in Traditional Societies*. Cambridge University Press.
- (2) オング、W. (1991) 『声の文化と文字の文化』 桜井直文・林正寛・糟谷啓介訳、藤原書店
- (3) Olson, D. and M. Cole (eds.) (2006) *Technology, literacy, and the evolution of society: Implications of the work of Jack Goody*. Lawrence Erlbaum Associates.
- (4) Jouanny, R. A. (ed.) (1992). *Lectures de l'œuvre d'Hampaté Bâ*. L'Harmattan.
- (5) Touré, A. et al. (eds.) (2005) *Amadou Hampâté Bâ, homme de science et de sagesse : mélanges pour le centième anniversaire de la naissance d'Hampaté Bâ*. Karthala.
- (6) Brenner, L. (1984). *West African Sufi: the religious heritage and spiritual search of Cerno Bokar Saalif Taal*. Hurst & Co.
- (7) Brenner, L. (2000) *Controlling knowledge: Religion, power, and schooling in a West African Muslim society*. Indiana University Press.
- (8) Pondopoulo, A. (2010). *Amadou Hampâté Bâ and the Writer Robert Arnaud (Randau): African Colonial Service and Literature*. *Islamic Africa* 1(2): 229-247.
- (9) Austen, R. (2015). *Finding the Historical Wangrin or the Banality of Virtue*. *Journal of West African History* 1(1) : 37-58.

2. 研究の目的

本研究の目的は、ハンパテ・バの活動を事例として、独立直前の西アフリカにおけるリテラシーの社会的な位置づけを明らかにすることにある。特に、前述のハンパテ・バの活動からみると、独立直前の西アフリカにおいて、リテラシーの社会的な位置づけは、ローカルとグローバルな文化政治運動の複雑な絡み合いのなかで動的に変容していったことが理解できる。本研究の独自性・創造性は、リテラシーの社会的な位置づけに着目することで、独立直前の西アフリカにお

いて、同時並行で生じていたフランス語とアラビア語のリテラシーをめぐる構図を浮き彫りにすることにある。

本研究と同様に、複数の文字言語が併存する地域では、どの文字言語で、どのような知識がテクスト化されるのかは、ローカルとグローバルの歴史的・政治的な条件に起因して変容する。リテラシーの社会的な位置づけへの着目は、文字言語のもたらず地域を越えたネットワークと拮抗関係、それらから析出される思想を分析する有効な手がかりとして、西アフリカ史研究を越えて、問題提起を行いうるものである。

3. 研究の方法

本研究では、ハンパテ・バのテクスト、同時代の行政文書と二次文献の収集と検討を行い、1940年代後半から1960年の独立までハンパテ・バの所属したIFANとムスリム事情局、1950年代後半に展開した対抗-改革運動のそれぞれの構成員と活動内容を分析し、ハンパテ・バの民族誌・論文がどのような人的ネットワークのもとに成立し、対抗-改革運動の活動といかに結びついていたのかを明らかにする。

具体的には、IFANとムスリム事情局の活動報告・人事異動の通達などの行政文書からそれぞれの構成員と活動内容をまとめ、IFANの紀要と『プレザンス・アフリケーヌ』の同時代の論文を収集し、ハンパテ・バの思想とネグリチュード運動との関係を整理する。さらに、ムスリム事情局と公安の報告から、対抗-改革運動の実態を精査する。特に、ハンパテ・バの民族誌や論文については、これまで等閑視されてきた序文や註釈の調査期間、調査地、調査協力者の情報に着目する。これらを手がかりとして、調査を行った地域や調査協力者となったローカルな知識人が、反植民地主義をかかげる政党が地方に浸透していた同時代の政治状況のなかでどのような立ち位置にあったのかを、地方行政区の報告書、有力者の個人調書などの行政文書から明らかにする。

4. 研究成果

本研究の実施には、2つの想定外の困難があった。第一は、新型コロナウイルスの世界的なまん延である。新型コロナウイルスのまん延は本研究期間の後半に重なるものであったが、これにより、当初の計画で想定していた国際学会等での発表を断念せざるを得なかった。第二は、マリでの史料調査において、当初、想定していた、ハンパテ・バによって主導された対抗-改革運動についての史料が、マリ国立公文書館には、ほとんどまったく残されていないことが判明したことであった。ハンパテ・バについての新たな一次資料の発見につながらなかったことは研究の方向性について深刻な変化を要請するものであった。しかし、この貴重な史料調査の機会を利用し、ハンパテ・バに関連しない史料の読解を進め、仏領オート・ヴォルタにおける人頭税の徴収において、植民地通貨のフランに対するタカラガイの価値の暴落が広範囲に生じていたことを示す一次資料にあたることのできた。この内容については、ケンブリッジ大学で開催された西アフリカの貨幣史研究の国際ワークショップで口頭発表をおこなったほか、現在、査読付き国際ジャーナルに投稿中となっている。

他方で、ハンパテ・バについての研究も一定の研究成果をあげている。フランス国立海外公文書館及びマリ国立公文書館において、アマドゥ・ハンパテ・バに関連する史料調査を行った。フランス国立海外公文書館では、ハンパテ・バの所属していたフランス黒アフリカ研究所の年次報告、ハンパテ・バによる雑誌記事などの史料の収集を行った。こうした基礎的な調査を踏まえ、2018年度第3回研究会AA研共同利用・共同研究課題「『プレザンス・アフリケーヌ』研究(2) テキスト・思想・運動」研究会において、「西アフリカにおける文字言語間の競合と『プレザンス・アフリケーヌ』: アマドゥ・ハンパテ・バにおける文字・印刷物/手稿書・転写」と題した発表を行い、西アフリカの文学・思想・政治のコンテクストのなかでのハンパテ・バの位置づけを明らかにした。また、「ふたつのコンテクストのなかのテクスト: アマドゥ・ハンパテ・バの「フルベ文化」(1956年)をめぐる」と題した口頭発表を日本アフリカ学会第56回学術大会にておこなった。ここでは、ハンパテ・バの著作が同時代のネグリチュード運動や民族誌学的なコンテクストのなかで読みとれるだけではなく、イスラーム神秘主義の専門用語のフランス語訳を用いて、その思想を語ったものとしても読めることを述べた。これらの成果は、アマドゥ・ハンパテ・バも寄稿した『プレザンス・アフリケーヌ』誌に掲載された代表的な論文の翻訳と解説を含んだ書籍のなかで2023年度内に刊行される予定である。

これらのほかに、『年報人類学研究』において「西アフリカ・イスラーム研究の新展開」と題した特集を組み、査読付き論文の4本の刊行をおこなったことに加え、『西アフリカ内陸の近代: 国家をもたない社会と国家の歴史人類学』を風響社から出版した。前者では、ローカルな歴史的コンテクストを踏まえて、ボボ・ジュラソにおいて1940年代後半から1960年代までに設立されたメデルサとその設立運動におけるイスラーム教育の断絶と連続性を、言説的伝統と文字言語の社会的布置という点から明らかにした論文のみならず、西アフリカ・イスラーム研究の広範なレビューをおこなったレビュー論文を2本掲載し、本科研のテーマであるリテラシーの社会的な位置づけをさまざまな観点から明らかにした。本特集では、2000年代以降の西アフリカ・イスラーム研究の新潮流の紹介と具体的な研究成果の提示をおこない、序論では、イスラームの人類学におけるイスラームの日常をめぐる近年の研究を踏まえつつ、アサドによって提示された言説的伝統という概念の再解釈と再定義をおこない、本特集の理論的な射程を明らかにした。後者の書籍については、全国紙に他地域を専門とする歴史研究者による書評が掲載され、日本アフリ

カ学会研究奨励賞を受賞するなどの反響があり、本科研で対象とする時代と地域の歴史的コンテキストを厚みを持って記述し、今後の西アフリカ内陸の歴史研究に大きく貢献するものとなっている。

さらに、本研究を発展させるため、アマドゥ・ハンパテ・バの同時代に活躍した二人の人物に着目した研究への応用をおこなった。一つ目は、アマドゥ・ハンパテ・バの同時代人であり、ハンパテ・バとの交流もわずかであるが確認されている、フランスの人類学者マルセル・グリオールについての研究である。グリオールのドゴンについての研究は世界的に著名であるが、彼のフィールドノートを用いた研究はいまだ途上であり、国立民族学博物館に所蔵されているグリオールのフィールドノートのマイクロフィッシュを用いて研究を進め、2つの論文を発表した。これらの論文では、グリオールによるオゴテメリの語りについて、グリオールのドゴン研究に対する批判と反批判を整理したうえで、オゴテメリ＝グリオールの思想として神話とその釈義にあらわれるアナロジーの思考を明らかにした。具体的には、繊維や水が螺旋や湿り気などといったモノの性質を起点としたアナロジーによって（差異を含みつつ）連続的なものとして認識され、このようなアナロジーの連鎖が、モノと非実在的存在者の概念群のネットワークを構成し、論理的な帰結として、新たな認識を生じさせることを述べた。二つ目は、アマドゥ・ハンパテ・バとやはり同時代人であり、ローカルな知識人として、ごく一部の人びとに知られていたマルハバ・サノゴについての研究である。彼は現在のブルキナファソの第二の都市ボボ・ジュラソで活躍した知識人であり、西アフリカ・イスラーム研究のなかでは重要な「インフォーマント」として位置づけられている一方で、彼自身の思想については研究がされてこなかった。そうした状況についてのまとめをおこない、日本アフリカ学会等での口頭発表をおこなった。この研究は、2023年度から開始される若手科研の研究テーマへと発展することになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 中尾世治	4. 巻 12
2. 論文標題 人類学における理論と研究の蓄積について ティヴの経済をめぐる研究史の検討から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『人類学研究所研究論集』	6. 最初と最後の頁 111-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中尾世治、黒川雛代、斉藤尚文	4. 巻 50
2. 論文標題 斉藤尚文さんとの対話 ある人類学者の半生について（4）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 南山考人	6. 最初と最後の頁 3-46.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾世治	4. 巻 11
2. 論文標題 特集・序 西アフリカ・イスラーム研究の新展開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報人類学研究	6. 最初と最後の頁 16-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中尾世治、池邊智基、末野孝典、平山草太	4. 巻 11
2. 論文標題 文献学的研究と人類学・民族誌学的研究の結合と乖離 1990年代までの西アフリカ・イスラーム研究の変遷	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報人類学研究	6. 最初と最後の頁 32-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中尾世治、池邊智基、末野孝典、平山草太	4. 巻 11
2. 論文標題 西アフリカ・イスラーム研究の新潮流 教団、思想、言説的伝統	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報人類学研究	6. 最初と最後の頁 52-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中尾世治	4. 巻 11
2. 論文標題 言説的伝統と文字言語の社会的布置 20世紀半ばの仏領西アフリカにおけるボボ・ジュラソのメデルサ 設立運動の断絶と連続	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報人類学研究	6. 最初と最後の頁 96-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中尾世治	4. 巻 48
2. 論文標題 序小特集 坂井先生の 人格 論 坂井信三先生退職記念	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南山考人	6. 最初と最後の頁 7-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾世治	4. 巻 48
2. 論文標題 喚起力と構造分析 冗談関係論の地平	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南山考人	6. 最初と最後の頁 11-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水貴夫、寺田匡宏、中尾世治	4. 巻 78
2. 論文標題 ガイドブックが拓く民族誌の新境地：『ブルキナファソを喰う！』をめぐる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Humanity & Nature Newsletter 地球研ニュース	6. 最初と最後の頁 6-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 38.石橋宏之、王智弘、熊澤輝一、小木首彩菜、中尾世治、三村豊	4. 巻 77
2. 論文標題 対話から議論へ、そして学問へ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Humanity & Nature Newsletter 地球研ニュース	6. 最初と最後の頁 19-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 39.山内太郎、中尾世治、鍋島孝子、伊藤竜生、清水貴夫、ニャンベ・シコボ	4. 巻 95
2. 論文標題 サハラ以南アフリカにおけるサニテーション研究の現状と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 27-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中尾世治・斉藤尚文	4. 巻 47
2. 論文標題 斉藤尚文さんとの対話 ある人類学者の半生について (2)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 南山考人	6. 最初と最後の頁 35-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾世治	4. 巻 75
2. 論文標題 カタストロフをいかに表象するか：書評「寺田匡宏著『カタストロフと時間 記憶 / 語りと歴史の生成』(2018)」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Humanity & Nature Newsletter 地球研ニュース	6. 最初と最後の頁 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計38件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 片岡良美、中尾世治
2. 発表標題 学際的な共同研究における異分野間コミュニケーションの実態：申請・審査過程における文書の分析を通じて
3. 学会等名 科学技術社会論学会 第21回年次研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hayashi, K., Shimizu, T., Harada, H., Nakao, S., Yamauchi, T.
2. 発表標題 Does the Baka need toilets? : Co-creation through toilet construction in the tropical forest of Cameroon.
3. 学会等名 The Thirteenth International Conference on Hunting and Gathering Societies (CHAGS 13) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 林耕次、清水貴夫、原田英典、中尾世治、山内太郎
2. 発表標題 トイレ造りをめぐる競争共創：カメルーン東部州ピグミー系狩猟採集社会での試み
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 ローカルな知識人とヨーロッパの研究者の邂逅としての「アフリカ史学史」：アルハジ・サリム・スワレの「平和主義」再論
3. 学会等名 第3回アフリカ史研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 「土着民」と「外来者」の対立について：ボボ・ジュラソのイスラーム史
3. 学会等名 科研費共同研究「『北部アフリカ』におけるイスラーム的知識の生成・共有と社会変革の論理」第2回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 コメント： 純粋な 人類学としての「応用」人類学
3. 学会等名 京都人類学研究会2021 年度 2 月例会「何かとともに」人類学する」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 アルハジ・サリム・スワレの「平和主義」再論：サノゴとウィルクスの「発見」
3. 学会等名 科研費共同研究「『北部アフリカ』におけるイスラーム的知識の生成・共有と社会変革の論理」第1回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 人文学からの貢献 / 異分野との連携：模索の5年間を振り返る
3. 学会等名 ワークショップ「地域社会によりそうサニテーション学の構築」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 The Socio-Cultural Aspects of Sanitation
3. 学会等名 International Symposium for Global Sanitation. The Sanitation Triangle: Socio-Culture, Health, Materials (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 「情報提供者」からみる「アフリカ史研究史」 アイヴォア・ウィルクスとアルハジ・マルハバ・サノゴの邂逅について
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清水貴夫、中尾世治
2. 発表標題 トイレはどのように空間的に位置付けられるのか ブルキナファソ中北部州におけるトイレ普及の社会文化的側面
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 コメント：ピースを範例とした人類史について
3. 学会等名 京都人類学研究会2021年新歓講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 人新世における総合地球環境学の未来（パネリスト）
3. 学会等名 総合地球環境学研究所創立20周年シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清水貴夫、小林広英、中尾世治、伊東未来
2. 発表標題 継承困難な「伝統」技術を伝える試み。ブルキナファソ・カッセーナの伝統家屋の保全に向けて
3. 学会等名 Things. 工芸から覗く未来. 京都精華大学伝統産業イノベーションセンター × Kyoto Kougei Week 2021シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 学際・超学際研究の促進のためのメタ研究　サニテーションプロジェクトでの試み
3. 学会等名 高知大地球研サニテーションプロジェクト合同勉強会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 西アフリカ内陸の近代史と歴史人類学の新しい可能性：史資料の偏在とパースペクティブ
3. 学会等名 第52回ASC（現代アフリカ研究センター）セミナー・日本アフリカ学会関東支部2020年度第3回例会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nakao, S. Osawa, T.
2. 発表標題 Anthropologists at the interfaces of knowledge: Possibilities of anthropology in environmental issues
3. 学会等名 Vienna Anthropology Days 2020（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 廣田緑、中尾世治
2. 発表標題 アートと人類学：往還の先に見える可能性
3. 学会等名 民族藝術学会第36回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 タカラガイの季節的暴落：仏領西アフリカの内陸における植民地通貨導入直後の貨幣状況
3. 学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水貴夫、中尾世治
2. 発表標題 汚泥の農業利用をめぐるサニテーションをCo-createする：ブルキナファソ中北部州Ronguin村とローカルNGOとの協働の事例から
3. 学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 林耕次、清水貴夫、中尾世治、山内太郎
2. 発表標題 定住した狩猟採集民のサニテーションをCo-createする試み：カメルーン東部州の事例より
3. 学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nakao, S.
2. 発表標題 The Ethics of Sanitation: Its Realms and Prospects
3. 学会等名 Online International Symposium on Sanitation Value Chain 2020. (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 106.K. Hayashi, T. Shimizu, H. Harada, S.=P. Etoga, Ch.-J. Nsonkali, V. Messe, G. Mbarga, Ch. Zobome, S. Nakao, T. Yamauchi
2. 発表標題 Co-creation practices on sanitation in the communities of Cameroon.
3. 学会等名 Online International Symposium on Sanitation Value Chain 2020. (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 対話に向けたコメント
3. 学会等名 EX東京セミナー企画
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Seiji NAKAO
2. 発表標題 Monetary Marginality and Multiple-Currency in the Colonial Situation: Monetary Transition from the Cowry to the Franc in Upper Volta.
3. 学会等名 International Workshop for the Economic History of Africa. Money in Africa: The economic and social history of the transitions from commodity to colonial currencies. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 トイレが普及するとどうなる? : ブルキナファソの現状から.
3. 学会等名 第7回アフリカ開発会議 (TICAD7) 公式サイドイベント シンポジウム「アフリカの地域の人びとと研究者が共創する未来型サニテーション」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 うまくいかなかった事例から考える文理融合のありうべきかたち.
3. 学会等名 第1回「メタ研究」研究会「学問分野の文化差から探る異分野融合研究のあり方」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 唯名論から実在論へ 「牧畜集合体」、統治の合理性のパラダイム、「抵抗」.
3. 学会等名 第37回まるはち人類学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林耕次、中尾世治、山内太郎
2. 発表標題 定住した狩猟採集民にみるサニテーションの現状と変容：カメルーン熱帯の事例より.
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 ふたつのコンテキストのなかのテキスト：アマドゥ・ハンパテ・バの「フルベ文化」(1956年)をめぐって.
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 西アフリカ・イスラーム研究の新展開
3. 学会等名 2018年度アジア・アフリカ言語文化研究所フィールドネット・ラウンジ企画「西アフリカ・イスラーム研究の新展開」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 イスラーム改革主義運動の新しさとは何か：1950年代のボボ・ジュラソにおけるメデルサ設立運動
3. 学会等名 2018年度アジア・アフリカ言語文化研究所フィールドネット・ラウンジ企画「西アフリカ・イスラーム研究の新展開」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中尾世治
2. 発表標題 西アフリカにおける文字言語間の競合と『プレザンス・アフリケーヌ』：アマドゥ・ハンパテ・パにおける文字・印刷物/手稿書・転写
3. 学会等名 2018年度第3回研究会AA研共同利用・共同研究課題「『プレザンス・アフリケーヌ』研究(2)テキスト・思想・運動」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 K. Hayashi, S. Nakao, T. Yamauchi
2. 発表標題 Defecation without toilets: Toward the study of sanitation activities in the hunter-gatherers
3. 学会等名 The Twelfth International Conference on Hunting and Gathering Societies (CHAGS 12),
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林 耕次, 中尾 世治, 山内 太郎
2. 発表標題 狩猟採集民の排泄行動 カメルーン, バカ・ピグミーの個体追跡による時間・空間分析から
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中尾 世治
2. 発表標題 ブルキナファソにおけるサニテーション改善の歴史と現状
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水貴夫、中尾世治
2. 発表標題 サハラ以南アフリカのし尿処理業者の社会経済的役割の解明に向けた予備的考察 ブルキナファソの事例より
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中尾 世治
2. 発表標題 住まうことと死ぬこと
3. 学会等名 第36回まるはち人類学研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 中尾世治、牛島健（編）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 256
3. 書名 『講座サニテーション学第2巻 社会・文化からみたサニテーション』	

1. 著者名 遠藤貢・阪本拓人編、藤岡悠一郎、佐川徹、橋本茉莉、中尾世治、遠藤貢、出町一恵、松本尚之、玉井隆、有井晴香、仲尾由貴恵、溝辺泰雄	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 274
3. 書名 『ようこそアフリカ世界へ』	

1. 著者名 イスラーム文化事典編集委員（編）、中尾世治	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 748
3. 書名 『イスラーム文化事典』	

1. 著者名 永原陽子編、松田素二、寺嶋秀明、坂井信三、鈴木英明、網中昭世、武内進一、米田信子、苅谷康太、杉山祐子、正木響、荒木圭子、中尾世治、佐藤千鶴子、石川博樹、眞城百華、溝辺泰雄	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 316
3. 書名 『岩波講座 世界歴史 18 アフリカ諸地域 ~20世紀』	

1. 著者名 Yamauchi, T., Nakao, S., and H. Harada (eds.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 264
3. 書名 The Sanitation Triangle: Socio-Culture, Health and Materials.	

1. 著者名 後藤明監修・大西秀之編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 392
3. 書名 『モノ・コト・コトバの人類史：総合人類学の探求』分担執筆：中尾世治「古典的民族誌はいかに読まれるのか 『水の神』における対話の歴史人類学的探究」, pp. 165-179.	

1. 著者名 木俣元一、佐々木重洋、水野千依	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 680
3. 書名 聖性の物質性分担執筆：中尾世治「モノを介したアナロジーの思考 オゴテメリとグリオールにおける神話の積義を事例として」, pp. 141-165.	

1. 著者名 中尾世治	4. 発行年 2020年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 606
3. 書名 西アフリカ内陸の近代：国家をもたない社会と国家の歴史人類学	

1. 著者名 中尾 世治、杉下 かおり	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東海大学出版部	5. 総ページ数 344
3. 書名 生き方としてのフィールドワーク	

1. 著者名 神本 秀爾、岡本 圭史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 集広舎	5. 総ページ数 312
3. 書名 マルチグラフィト	

1. 著者名 松本尚之、佐川徹、石田慎一郎、大石高典、橋本茉莉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 アフリカで学ぶ文化人類学	

1. 著者名 中尾世治(分担執筆)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 集広社	5. 総ページ数 248
3. 書名 ラウンド・アバウト フィールドワークという交差点	

1. 著者名 I. K. Mangane et S. Nakao	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Humanity and Nature	5. 総ページ数 141
3. 書名 La memoire de El-Hadji Beinke Souleymane Mangane de l'ecole coranique, De l'Union Culturelle Musulmane et a la Communaute Musulmane (1946-1960) Bobo-Dioulasso, Burkina Faso.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------